

知れば知るほどすごい！

越前和紙の魅力

古い歴史を持ち、国指定伝統的工芸品でもある「越前和紙」。全国に数ある和紙産地の中で、手漉き和紙のシェア日本一。まだまだ一般的には知られていないその魅力に迫ります。

1500年の歴史と伝統

「越前和紙」の発祥は、今から約1500年前。継体大王の時代に、越前市五箇地区にある岡本川に現れた美しい女神が村の人々に紙漉きの技を伝授したことがその始まりと伝えられています。人々はこの女神を、紙の神様「川上御前」とあがめ、岡太神社の祭神としました。紙の神様をまつるのは、全国でも岡太神社だけです。

これ以降、紙漉きは越前の地に根ざした産業として大きな発展を遂げてきました。

卓越した品質

越前和紙の特徴は、表面が滑らかで強度があり、しかも長期保存ができること。この優れた品質は古くから認められ、奈良の正倉院には、西暦730年の年号を記した越前和紙が保管されているほど。また、室町時代には公用紙、江戸時代には幕府の御



日本最古のお札「福井藩札」
(福井県和紙工業協同組合青年部復刻)

用紙として、また、日本最古のお札である「福井藩札」や、明治元年に発行されたお札「太政官札」にも使用されてきました。さらに、1919年のベルサイユ条約の調印用紙にも採用されるなど、「越前和紙」は時代や国境を超えて多くの人に重宝され、その地位を確立してきました。

万能素材「越前和紙」

また、卓越した品質に加え、他の生産地にはない種類の豊富さから、さまざまな分野で愛用されています。特に、発色の良さや高い吸水性などから、浮世絵師や日本画家、木版

画家などに愛用者が多く、横山大観や平山郁夫など日本を代表する画家をはじめ、あのピカソからも注文があったと言われています。



葛飾北斎の木版画原版から復刻し刷り出した版画絵。人間国宝・岩野市兵衛氏の手漉き奉書6000枚が使われた(原版所有＝米ボストン美術館)

また、さまざまな模様を漉き込んだふすま紙として使用され、部屋を演出してきたほか、近年では小物、ラッピング素材にも活用されるなど、その活躍の場を広げています。



羽田空港第2旅客ターミナルに飾られている千住博氏制作の「滝のオーロラ」のオブジェ

越前和紙の里

越前市の「越前和紙の里」では、職人の技を間近で見学できる「卯立(うだつ)の工芸館」をはじめ、紙漉き体験ができる「パピルス館」、世界最大の手漉き和紙を展示し、和紙に関する情報が満載の「紙の文化博物館」など、「越前和紙」を見て、触れて楽しむことができます。

